

指定校番号	28029	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立尾長小学校	校長	福馬 亮	生徒指導主事	西村 則生
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『児童会あいさつ運動』

取組のねらい 『なかまおもいの尾長小学校』

全校で「あいさつ運動」に取り組むことを通して、自分とまわりの人とのつながりを深めていく。

取組の具体的内容 『あいさつ良いところ見つけ』

- 児童会が主体となり、前期後期に各 1 回ずつ「あいさつ週間」を設定し、あいさつ運動を行う。
 - ・ 代表委員会にて、執行委員会より「あいさつ運動」の提案を行う。
 - ・ 期間（前期、後期）、時間（登校時）及び場所（門、各校舎廊下、わたり廊下）を設定する。
 - ・ 方法の確認を行う。
- （方法）
- ① 門は執行委員及び高学年の希望者が立つ。（校長、生徒指導主事も含む）
 - ② わたり廊下は全校希望者が立つ。
 - ③ 校舎内は執行委員及び学級代表がまわる。
 - ④ 各学級代表に「あいさつ良いところ見つけカード」を配布。学級代表は日々の良かったところを記入して児童会ポストに入れる。
 - ⑤ 執行委員は、給食時間に日々の良かったところについて、カードをもとに発表する。
 - ・ 取組後、代表委員会にて反省を行う。



取組の課題・創意工夫 『あいさつ良いところ見つけカード』

- （課題）
- ・ 期間中は大きな声が聞かれるものの、定着には時間が必要。
- （創意工夫）
- ・ 「あいさつ良いところ見つけカード」を作成することで、あいさつに対する意識の高まりが見られた。

取組の成果（効果） 『教師と子ども、子どもと子どものつながり』

- ・ 「あいさつ運動」を通して、他学年や普段関わりの少ない教職員と言葉をかわす場面が意図的に設定され、教師と子ども、子どもと子どもが言葉を通してつながる良い機会となった。
- ・ 学校評価委員会におけるアンケート調査結果でも、「子どもたちはよくあいさつをしている」の項目において肯定的な回答が 86.4%と昨年度に比べ 2 ポイント近く上がっている。

今後の展開『更なるつながりを目指して』

今年度は年間2回の取組となったが、年間3回を目標とするとともに、取組期間以外でも主体的にあいさつができるよう教職員も積極的に児童に対して働きかけていくことにより、教師と子ども、子どもと子どもの更なるつながりを構築していく。

他校へのアドバイス『教職員の積極的働きかけ』

子ども同士のつながりを深めるためには、教職員がまず積極的に子どもと関わる必要がある。「あいさつ運動」においても、教職員が率先して声をかけていく姿勢が大切である。